

三木繭美

平成三十年 夏

地下道から地上に出た 渋谷・宮益坂下
横断歩道付近は まぶしすぎる陽射し
街はどぎつい色で がちやごちや人が行き交う
七十三年前 ここはどんなだったろう
高い街路樹の 緑の宮益坂が上がっていく
ほどなく左手に御嶽神社の鳥居 くぐって灰色の石段
ビルの間の四角い空へ 端正につづく のぼる
狭い境内 湿気を含んだ暑さだけが満ち 誰ひとりいない
手水舎に吊るされた手ぬぐい 少し揺れて
本殿に参拝し振り返れば 炙り不動尊前に男ひとり
日参している人か 本殿参拝のちさっさと降り